

彦 いち 耕 し 嘸

文 林家彦いち  撮影 佐藤秀明

第7回 大収穫！きのこの山を食べ尽くせ

晩秋の気配深まりゆく小淵沢の「彦いち農場」。農作業は一休みだが、「そろそろきのこが……」なんて話を聞くと、居ても立ってもいられなくなる。さあいざ、きのこを狩りに山へ！ その首尾やいかに？

採れた採れた、
おいしそうなきのこちゃ
んたち！食べちゃうぞ♡



ようやく発見した「じごぼう」。カラマツの下に
ちょこんと鎮座。下からそとと取る。さあ次だ。

「大丈夫、『じごぼう』ならすぐわかるよ、おいしいし、
いいよ」と松坂さん。じごぼうはアマタケ科の「ハナイ
グチ」のことで、初心者にも見つけやすく、おいしいき
のこである。カラマツの下を探すといらしい。

「僕、きのこのこと全くわからないんですよ」
「大丈夫、『じごぼう』ならすぐわかるよ、おいしいし、
いいよ」と松坂さん。じごぼうはアマタケ科の「ハナイ
グチ」のことで、初心者にも見つけやすく、おいしいき
のこである。カラマツの下を探すといらしい。

「是非きのこ狩りやりたいです、連れてって下さい」
とお願ひしてみたところ、「いいですよ、行きましよう」
と松坂さん。やった！ とはいえ、きのこ狩りは初めて。
食用か毒かの見分けが出来ないのは当然ながら、どうい
うふうに生えているのかさえもよくわからない。マツタ
ケをたくさん見つけたら売れるのか……などと妄想は広
がるばかり。こういうのは土地の人に聞くのが一番だ。



抜きたての大根。形もおいしい味も
いい。がぶりっとかじる。辛い！

以前から、世話人の松坂さ
んやカメラマンの佐藤さんが、
畑仕事をしながら「この近く
は秋になるときのこが採れる
んだよね」と話していたのを
聞いて、最初は「へえ〜」と
なすくだけだったのだが、そ
のうち佐藤さんが「おいしん

いざ、秋の味覚きのこ狩りへ！



やる気満々で出陣！
きのこはなかなか見
つからず。あった！
「それ毒ですよ」。

採ったきのこを入れる籠を腰に巻いて出発！ だが、やる気満々で山に入ったものの、わからない。と、佐藤さんが「彦いっちゃん、アレだ」と叫んで走る。僕も走る。じごぼうだああ。その他にクリタケも採れた。

今回は、NHKラジオでレギュラーをやらせてもらっている「渋谷極楽亭」という番組で一緒に関口健アナウンサーと太宰麻帆ディレクターが参加してくれた。もちろん『山猫亭』の太田さんと農家出身ライター森山くんは、今回も腕まくりして気合十分で駆けつけてくれた。

夕方、それぞれ採れたきのこを持ち寄り、どっちが多く採れた、これは毒だ、きのこ採りには人柄が出る……などあれこれ言いながら、いよいよきのこ鍋が始まった。

鍋が出来る前に、畑から抜いたばかりの大根をすりおろして「じごぼうおろし」を作った。辛味大根もちょうと入れる。おいしい。今日採れたものを二つ混ぜるだけでこんなおいしいものが出来るなんて、土の恵みに感謝。鍋がぐつぐついつてきた。盛りだくさんのきのこ野菜をどんどん入れて煮ていく。そして、太田さんの絶妙

で妥協なき味付けが始まった。僕などはスグ食べちゃうのだが、やはり最後までツメていく感じがいいのだ。そして「いいですよ」との太田さんの合図で、皆で一斉に食べ始める。ウマイ！



正体不明のきのこは採らない。毒きのこは同じ籠に入れてもダメ。



簡単でウマイ！ 山の幸に感謝！



新鮮きのこ大根のコーラレーション。山のハーモニーを奏でる。



きのこの山を目の前に皆ゴキゲン。これがどんな料理になるか。どんな味なのかワクワク待つ。野菜を切りまくりどんどん鍋に入れる。秋の収穫と森山くんの結婚報告に乾杯！ 誰かが「これからが大変だあね……」。



屋外の肌寒い中で熱い鍋。太田さんに教わりながら、ちょっとずつ味噌をとかしてゆく。ウマイ！ちょっとした違いが大きな違い。笑いが止まらないのは、ヘンなきのこを食べたからではない。



関口アナが「いっつもコレ食べてるんっすか」。「今日は特別、きのこ大会なんっす」と答える。そこに松坂さんの奥様お手製のきのこグラタンが登場。バンザーイ。おにぎりも一緒に出てきた。

採れたての食材とお酒でいい感じになると、皆が囁家よりはるかに饒舌になる。これがまた楽しい。そんな中で、森山くんが明日結婚入籍することが発覚。おめでとうろと乾杯してねほりはほり聞いたり、役立つことから役立たないものまでいろいろアドバイスをしたり。

美酒ときのご鍋の湯気で心地よくぼんやりしてきたその時、松坂さんが鍋をじっと見ていたかと思うと指で何かをつかんで「あっ、これダメだあ」とつぶやいて取って捨てた。どうやらきのこらしきものだったような気がしたのだが、あれは一体なんだったのだろう……。

翌朝、畑へ。おいしいものを食べるには地道に育てて収穫。冬を越して春に収穫出来る玉ねぎとにんにくを植えることに。そこに地主さんの小林さんが登場。

「どうだね、調子は？」

「冬のものをいくつか植えて、大豆も収穫しようかと」

そしてきのご鍋の夜は更けて……。



松坂さんの奥様お手製のきのこグラタン。一同「バンザーイ」。

と僕が言うと、「おうそうかね、だが大豆はまだ早いだ、まだだ」「はい」。小林さんの言うことは素直に聞く。畝を作って、にんにくを剥いて、一粒ずつ等間隔に植えていく。玉ねぎはマルチシートを使うことに。苗を丁寧に植えて、ちよつと空いたのでターサイも植えてみた。どうなるのか楽しみだ。

NHKの太宰さんは畑仕事をやってみたかったらしく、土も虫も嫌がることなく楽しそうに雑草を抜いている。関口アナは農業が好きで手際もよい。普段東京で一緒に仕事している人と、畑で汗を流すのもなんだかいいものだ。次回はいよいよ、彦いち農場で採れた蕎麦でそば打ちが出来る……ハズ。



冬ものを植えて、来春を思う。

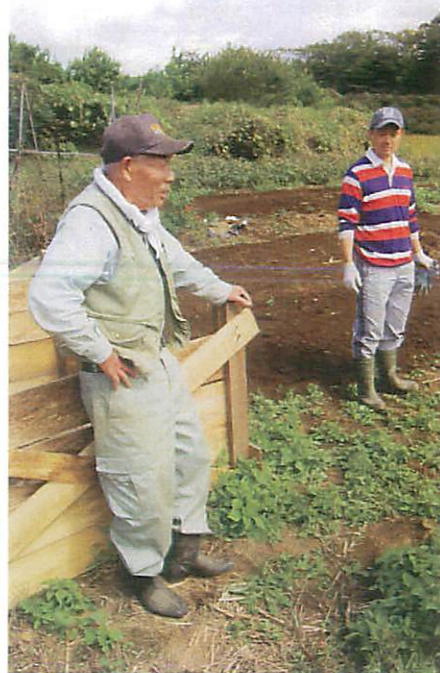


玉ねぎの苗。こんな細いものからまん丸の玉ねぎが出来るのか!?
来春が楽しみ。



にんにくは丸ごと買ってきて剥く。
それを一粒ずつ芽を上にして植える。

二回目となるマルチシートかけ。雑草が生えにくくなる。穴に植えていく。



左は地主の小林さん。「大豆の収穫には早いだ」「はい」「畝はまっすぐでな」「はい」。



07NOU30-39pop.jpg



林家彦いち

昭和44年鹿児島生まれ。平成元年、林家木久蔵門下へ入門、14年に真打昇進。『林家彦六賞』受賞(平成16年)他受賞歴多数。平成19年度『彩の国落語大賞』受賞。数々のオリジナル新作落語と、独自の味つけの古典落語、共に彦いち的世界観の広がる高座を全国で繰り広げている。カメラ、カヌー、格闘技が趣味で、大学時代極真空手の道場に通っていたという武闘派噺家。「久米宏のラジオなんですけど」(TBS)レギュラー出演他、テレビ・ラジオでも幅広く活躍。近著に『いただき人生訓』ほか。原作監修の落語漫画『如春亭へようこそ』(星野めみ・著)発売中。

『彦いち噺 DVD-BOX』(2枚組、7980円)、『林家彦いち 喋り倒し——野田知佑 夢枕獏とユーコンを下る』(DVD、4935円)も発売中。

✕ 閉じる